

連携協働通信「架け橋」

令和6年12月23日

横浜市教育委員会 学校支援・地域連携課 発行 NO. 41

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiiikirenkei/gakkoushien.html>

学校運営協議会委員及び学校・地域コーディネーター及び教職員合同研修

10月22日(火)、10月29日(火)に、学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員を対象とした合同研修を実施しました。具体的な活動事例として、今回は、市ケ尾中学校ブロックの学校運営協議会と新鶴見小学校の地域学校協働本部の取組についてご紹介いただきました。

市ケ尾中学校ブロック(市ケ尾中学校の竹下校長・荏田西小学校の矢崎校長・東市ケ尾小学校の霜田校長)からは、市ケ尾中学校ブロックのこれまでの学校運営協議会の歩みや取組、地域との連携や関わりについて具体的に紹介いただきました。また、学校運営協議会会長の溝上さんからは、「あいさつ運動と学力との関係」について、データを活用して分析した結果をもとに、お話いただきました。



新鶴見小学校の田名部校長からは、開校30年目の同校において、地域とともに子どもを育てていること、中でも学校・地域コーディネーターを中心とした「しんつるサポーターズ」に支えられていることが語られ、学校・地域コーディネーターの霜鳥さんからは、新鶴見小学校の地域学校協働活動における持続可能な取組について事例を交えながら説明していただきました。

その後、2校の紹介を踏まえ、参加者の皆さんで①自校における地域と学校の連携・協働(学校運営協議会・地域学校協働活動)②これからの自校の連携・協働の方向性(今年度の取組)をテーマにグループ情報交換を行い、それぞれの活動について協議を深めました。

最後に、教育委員会からは、地域学校協働本部の委託料について、ポイントを絞ってお伝えしました。今回の研修は、多くの取組を進めていただいている小中学校、学校・地域コーディネーターに事例報告としてお力添えを頂きました。事例に基づき、必ずこのようにやらなければならないというものではありません。今回の事例から、自校に何か活かせることや今後取り組みたいことの参考にさせていただきたいと考えています。活動を進めていく中で、何かありましたらいつでも学校支援・地域連携課にご連絡ください。

研修振り返り(自由記述)

(アンケートより抜粋)

- ・「あいさつ運動」は、取り組みやすく、学校と地域の連携、社会全体で子どもを育てる取組であると思う。
- ・他校の活動の発表を拝聴し、自分たちにもできることの発見がありました。できるところから、関わっていきたくと思いました。
- ・「子どものために」という視点で、学校と地域、保護者が連携して取り組む様子を具体的に知ることができた。
- ・自分が関わっている協議会は小中別開催なので、一緒に協議会を開催する有意義さについて実際に聞いた。先生たちにも頼ってもらえるコーディネーター、協議会委員でありたい。お世話になる地域の方を「ちいきの先生」として、もっと子どもたちと顔見知りの関係へと繋げられたらと思う。
- ・エネルギーに各校で学校支援にあたる皆様と知り合うことができ、各地域の実情を聞いて参考になりました。
- ・成功しなくてもとりあえずやってみる。できなくても誰かが助けてくれる。と言う例をたくさん教えていただいた。

2校の実践発表より抜粋

<市ケ尾中学校ブロック 学校運営協議会の取組>

「笑顔とあいさつがあふれる子ども像」を目指して～学校運営協議会からの発信～

1 小中学校ブロックの学校紹介

桂田西小学校（創立 32 周年）
・児童数 763 名

市ケ尾中学校（創立 39 周年）
・生徒数 580 名

東市ケ尾小学校（創立 44 周年）
・児童数 530 名

- ◎ 3校のアクセスのよさがあり、児童生徒が行き来しやすい。
- ◎ 夏季には、3校合同研修会を毎年開催している。

市ケ尾中ブロック

2 学校運営協議会の歩み（令和2年度～令和5年度の取組）

- ◆令和2年度：コロナ禍真っ只中、小中ブロックによる学校運営協議会を発足
 - 「地域連携表」を作成。地域と3校の連携の現状を共有。
⇒地域と3校の連携の中で、見えてきたこと…ブロックで育てたい子ども像「あいさつができる子の育成」
- ◆令和3年度：市ケ尾中ブロック地域ボランティアグループの名称決定
 - 学校・地域コーディネーターが中心となり、名称を3校に公募。…小中学生のアイディアで決定
「3peace（スリーピース）」
- ◆令和4年度：小中合同あいさつ運動の実施／「熟議」ができる協議会に向けて
 - 小中合同あいさつ運動の実施…学校運営協議会委員による視察。
⇒中学校生活委員会（生徒中心）が主導。3校の児童生徒が行き来をして朝の登校時にあいさつ運動実施。
 - 「熟議」ができる協議会に→次の協議会の円滑な推進のため
 - ・企画委員会の発足…市ケ尾中学校ブロックで期待される新しい課題・改善点について検討し、学校運営協議会に具体的な取組案を提案することを目的。
開催日は不定期。
 - 開催の流れ 学校運営協議会→企画委員会（議題の整理）→次の学校運営協議会
- ◆令和5年度：あいさつ運動に向けて本格的に始動
 - 実態把握のための「あいさつアンケート調査」を実施。
 - ・アンケートの実施主体：市ケ尾中ブロック学校運営協議会
 - ・調査対象：3校の児童・生徒・保護者・地域住民
 - ・調査時期：2024年1月～2月
 - ・アンケート内容の検討

児童生徒が作成したアンケートをよりブラッシュアップさせるために学校運営協議会委員からのアドバイスをいただく。

アンケート調査の結果を公表

- ・運営協議会委員で共有
- ・3校のWEBページ、学校だより等

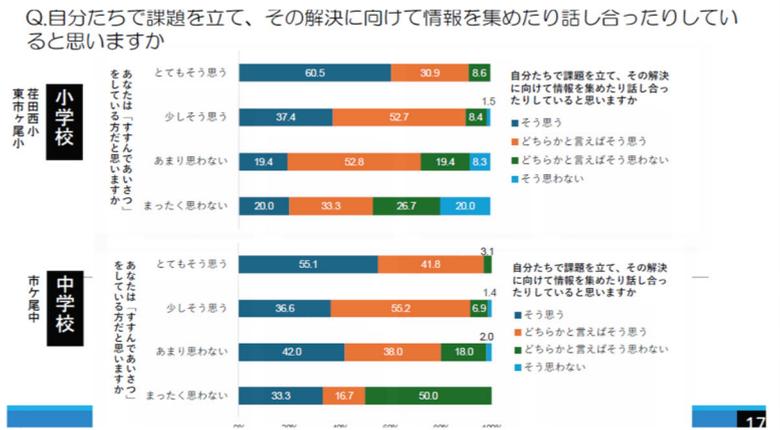
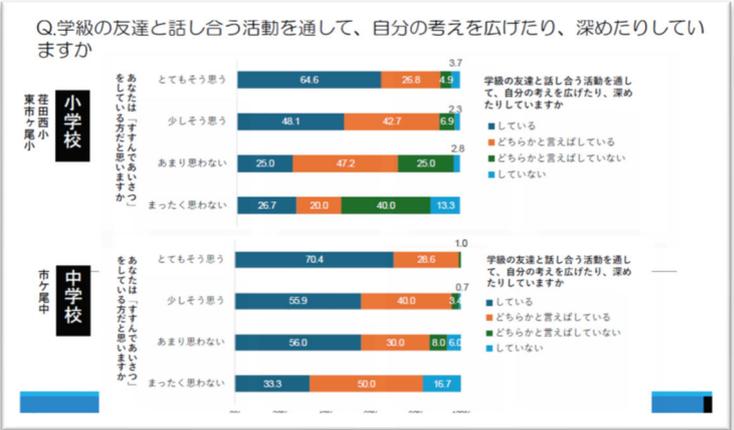
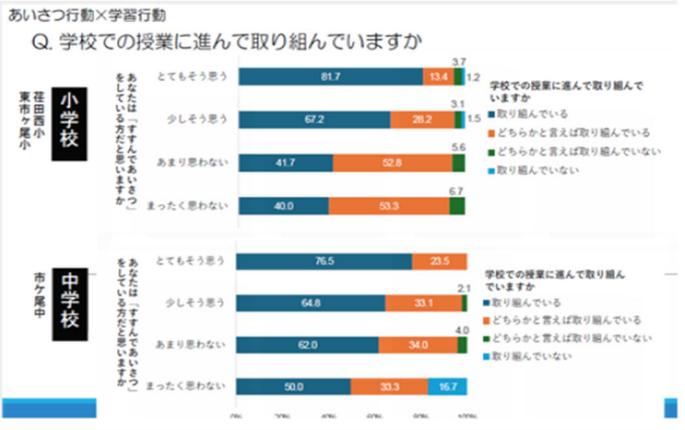
あいさつの重要性は理解。
一方で「実態としては不十分ではないか」との意見多数。（自由記述より）

3 学校運営協議会（令和6年度の取組）

- 昨年度実施したあいさつについてのアンケート調査の結果をもとに、今年度の具体的な取組について検討
 - ・地域との関わりや活動を言語化…学校の取組や学習課題として取り上げる。
→児童生徒の主体的なアイディアを尊重。
 - ・学校から地域への発信を高めていく。
 - ・地域や自治会で、できることを発信。
- 「あいさつすすめ隊」発足（地域・保護者・運営協議会委員）
 - ・今年度の具体的なアクションを目指す。
 - ・あいさつ宣言ポスターの掲示
 - ・夏祭り等、地域行事でPR
 - ・のぼり旗川柳…児童生徒が取り組む。

あいさつアンケート調査×横浜市 IRT 型学力・学習状況調査データ

- ・今回の報告の分析対象：小学生（5・6年生）、中学生（2・3年生）
- ・横浜市 IRT 型学力・学習状況調査データの確認（2024年6月）
- ・3校担当教員のデータのマージ・分析研修（2024年6月）
- ・学校運営協議会で報告（2024年7月）
- ・横浜市学習状況調査・再調査（2024年7月）



○「あいさつ」は、個人の他者・社会・世界への開かれた態度としてあらわれるもの・取組・行動。特に、朝のあいさつは1日の始まりとして行う行動。これを家族・学校・地域で大切に育てていくことが、現代社会を力強く生きていく子どもたちの育成につながる。

○あいさつの実態・・・地域と学校のみとりに差がある。

○子どもたちは、あいさつが大事だと思っている。

〈結果より〉

- ・あいさつと教科学力は、あまり関係ない。
- ・ただ、授業に熱心に取り組むこと、主体的・対話的な学びや探究的な学びとは大きく関係ある。特に「（授業に）取り組んでいる」割合と「あいさつができていない」割合とは大きく関係する。
- ・「話し合う活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりしているか。」は、特にきれいにデータが出ている。あいさつをしている人からしていない人へ、この数は減っていく。

あいさつ＝他者や社会に開かれた態度⇒学校で大事にしている『現代社会で求められている力』に向けて、育てている活動のデータにきれいに表れている。
→これを学校運営協議会にて提案。3校合同で教員研修も実施。

◎「あいさつ」は、非認知能力から認知能力（＝学力）へと大きく転換していく活動である。学校での熱心な取組にもつなげられるとよい。

4 今後の展望 ～地域・保護者の方とともに～

- ◆今後も目標やビジョンを共有し、本音で話し合う「熟議」を目指して
→多くの当事者（保護者・教員・地域住民等）が集まって課題について学習・熟慮し、討議をする。
→多くの意見が反映され、個人が納得して、自分の役割を果たすことができる。
(参考：「学校と地域の連携・協働による横浜の子どもたちの育成リーフレット」)
- ◆今年度の取組の検証（成果・課題） → 持続可能な取組、仕組みづくりへつなげる。

<新鶴見小学校 地域学校協働活動の取組>
 「はじめまして しんつるサポーターズです～持続可能な地域学校協働活動をめざして～」

○新鶴見小学校の歴史○

- ・1995年6月矢向小学校からわかれて開校
- ・2025年度 創立30周年
- ・校内に 新鶴見小学校コミュニティハウス
- ・敷地内に コミュニティハウス体験農園
- ・NPO 法人史季の郷を併設

○地域協働のあゆみ○

- ・まちのせんせい
- ・スクールパートナー (SP)さん
- ・PTCA 実践モデル校

2013年度しんつるサポーターズ運営委員会として活動開始!

ボランティア活動の一括管理についての取組

- ・2020年度佐藤朗子校長の着任!
- ・子安小学校キラキラ応援隊の全面協力
- ・Google フォームを活用した仕組み作り
- ・年度始めの募集⇒年間ボランティア登録

活動の展開は・・・

- ・ボランティア登録～各サポート活動への展開
登録された一括データから各活動へ
- ・学校側(先生方)との情報共有
- ・地域行事の中に子どもたちの発表の場を!
- ・原点は…「子どもたちにワクワクを届ける」

活動を始めるにあたって…

「学校のニーズ」って何だろう。

- ・活動の記録を次年度につながる形で先生と共有する
- ・どうしたら良いかを一緒に考える
- ・先生方とたくさん話してみる

- ◇横浜学校・地域コーディネーター連絡会
- ◇区ごとのコーディネーター連絡会など
- ◇Yokohama 学校・地域コーディネーター
LINE オープンチャット

<活動していく中での課題に対して、こんな工夫はいかがでしょう!>

★資金繰りについて

- ◎財源を探す —地域行事への協力や出店、バザー、など
- ◎情報のアップデートを心がけ —地域、企業 CSR 活動、公的機関、など
- ◎他校コーディネーターとの情報交換 —活動の場が広がる、広角的な視野を持てる

★人集め(ボランティア、運営)について

- ◎活動のはじめと終わりのあいさつをする —地域学校協働本部のボランティア活動を意識する
- ◎ボランティアさんと一緒に活動してみる —気持ちの共有、顔をおぼえてもらう
- ◎ポジティブな感想を持ち帰ってもらう —「また来たい!」「楽しい!」
- ◎「子どもたちにワクワクを届ける」 —大人も子どもと一緒にワクワクする

～合言葉は、子どもたちにワクワクを届けよう!～

【活動の一例】

先生とまち探検

4月に、生活科グループの先生方とまち探検に出かけます。一昨年の3年生が「手描き地図アワード」で大賞を受賞した地図を使い、ものづくりの町工場など、まちの財(たから)を中心にご案内しました。生活科や総合学習のヒントとなれば嬉しいです。



- ・異動されてきた先生のリクエストで始まる
- ・2年生、3年生のまち探検、総合学習へつながるまちの財(たから)さがし
- ・“歩いてまわる”が大切

ととかかさん(1年生支援)

入学式翌日より5月半ばを目安に、登校～下校までの時間、1年生がワクワクして学校に通えるようお手伝いをしています。

- ・平成25年度より活動開始
- ・地域と保護者(長子が1年生はのぞく)ボランティア20名ほど
- ・無理のないスケジュール設定
- ・登校～下校時まで 給食や休み時間も含めたサポート
- ・コロナ禍も、この活動だけは縮小せずに実施

6年生卒業コサージュ製作

卒業式でつけるコサージュを、6年生保護者や地域の方と製作し、お祝いをしています。



- ・6年生保護者ボランティアと地域で製作⇒卒業式前に6年生担任にお届け
- ・実施形態やデザインの変化 クラスカラーのリボンに変更せず

【来年度に向けて】

新鶴見小学校は創立30周年をむかえます。持続可能な地域学校協働活動として、これからはじまる未来への、みんなで刻むはじめの一步となるような行事としたいと企画を進めているところです。

学校・地域コーディネーター研修・交流会② 報告

11月14日（木）20日（水）に、学校・地域コーディネーターの皆様を対象に今年度2回目の研修・交流会を実施しました。

研修では、教育委員会事務局より、学校・地域コーディネーターの役割の1つとして「地域学校協働本部の委託料」について、お伝えしました。

横浜市では、地域学校協働本部の活動をより組織的・継続的に進めることを目的として、地域学校協働本部と委託契約を結び、委託料をお支払いしています。引き続き、委託料の適切な活用をよろしく願いいたします。

講演では、講師として

- ◆横浜市学校・地域コーディネーター連絡会 高橋 様
- ◆新井中学校 学校事務長 関 様
- ◆茅ヶ崎中学校 学校事務長 青木一生 様
- ◆保土ヶ谷中学校 学校司書 黒澤 様
- ◆本牧南小学校学校司書 青木美佳（あおき みか）様

を迎え、お話いただきました。

学校事務・学校司書それぞれのお立場から、普段の仕事内容や子どもたち・職員・地域との関わり、様々な取組の工夫などについて、丁寧にお話いただきました。当日配付した資料は、12月中にHP上にアップしますので、横浜市HPからすべて御覧いただくことが可能です。ぜひ、校内の学校・地域コーディネーターの方とも共有し、今後の活動につなげていただけましたら幸いです。



後半のグループ協議では、4～6人で集まり、所属されている学校の地域学校協働活動の取組についてや、前半お伝えした「委託料」や「学校内で繋がれる・繋がりたい人たち」についてなど、幅広く情報交換を行いました。共感の声や笑顔もたくさん見られるグループ協議となり、活発な意見交換が行われていました。情報交換することを通して、参加者のみなさんが今後の活動に向けての見通しをもったり意欲を高めたりすることができた様子でした。

来年度も学校・地域コーディネーターの方がこれまでの活動を振り返ったり、今後の取組について考えたりしていくことができるような研修・交流会を計画、実施していきます。

振り返り

（アンケートより抜粋）

- ・事務長さん、学校司書さん、それぞれのお仕事内容をここまで詳しくお聞きしたことは無かったので、色々な角度からのお話しがとても興味深く、貴重なお話しをお聞きできたと思いました。
- ・とても楽しく理解しやすく良かったです。司書さんや学校事務さんがいらして相談できる方がたくさんいるのだと知れてとても良かったです。
- ・事務職員の役割、学校司書の役割を知る事ができました。学校司書と学校地域コーディネーターを両方知った上で、司書の役割で情報発信する事例が素敵でした。
- ・地域コーディネーターを認知してもらい取り組みやボランティアの集め方など、大変参考になりました。
- ・学校によって活動は違うが、他校の活動を教えていただける機会はありがたいです。
- ・今後もコーディネーター、先生方、地域の方々との関係を大切に活動していこうと思う。

- ・毎度大変参考になり、いろいろと知る機会になってよかったです。なぜ地域コーディネーターになったのか？自分につとまるのか？といろいろ根本的なところを自問自答する機会になりました。
- ・学校のニーズの真意を見極め、地域にも学校と関わり子どもたち、まちを育てる喜びを感じてもらえるような仕掛け作りをしていきたい
- ・学校管理職とのコミュニケーションを密にとって、学校にとって必要な活動を今後も支援していきたいと思っています。サポーターなどお仲間を増やしていきたいです。
- ・毎年同じ年はない中、一見同じ内容を継続しているようでアプローチの仕方ややり方を変えながら進めていく、常に状況を確認しながら柔軟に けれど軸はブレないように、先ずは自分磨きします。
- ・とても有意義な時間でした。地域コーディネーターの認知について今後テーマにしてほしい。
- ・【委託事業】の意味、金銭の取扱いなど、説明がとても解りやすかったです。

学校運営協議会の設置について（学校向け情報）

現在の学校運営協議会の設置校数は令和6年10月現在で500校になっております。今回、様々な事情により設置ができなかった学校においては令和7年4月の設置に向けて2月中旬までに書類と名簿の提出をお願いいたします。設置に向けた地域との調整や委員の選定、既存の組織の運用などにおいて、まだ時間が必要だという学校については、設置に向けての相談や地域の方や委員になられる方への説明などを学校支援・地域連携課が行うことが可能です。その場合は、ぜひご相談をいただければと考えておりますので、ご連絡をいただけるとありがたいです。引き続き、よろしくお願いいたします。

学校運営協議会の令和7年4月設置について

	学校運営協議会 設置の機会
設置日	令和7年4月1日
申請書提出の締切日	令和7年2月中旬

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替える場合、また複数校から単独での協議会をご検討の場合、以下の点にご注意ください。

- ①新たに単独または合同で立ち上げるまでの間、既存の学校運営協議会の設置校であり続けます。
- ②合同協議会または単独の協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要です。
- ③協議会移行の際は再度、申請書と名簿の提出が必要になります。

※設置に向けてお困りの際は、学校支援・地域連携課にご連絡ください。

令和7年度 学校・地域コーディネーターの配置について

学校運営協議会と同様に、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター」の配置も継続して進めています。

令和6年度も109校の学校から163名の受講者が「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講しています。うち3校から新規の学校・地域コーディネーターが推薦されました。

現在横浜市では461校に学校・地域コーディネーターが配置されています。

「学校・地域コーディネーター」は学校長の推薦が必要で、学校長の推薦を受けた方に、年間5回の「学校・地域コーディネーター養成講座」を受講していただいています。来年度の推薦に向けて新しく学校・地域コーディネーターの配置を考えている場合は推薦のご準備を進めていただけるとありがたいです。

また、複数人配置することで活動が活発になることも考えられますので、お仲間を増やすこともご検討ください。一度に複数名の推薦も可能であり、複数名での養成講座への出席も可能です。推薦は、令和7年3月中旬より開始予定です。推薦をもって6月より開始される学校・地域コーディネーター養成講座の受講が可能となります。どうぞよろしくお願いいたします。

何かお困りなことがありましたら、いつでもご相談ください。

学校支援・地域連携課 671-3278